風土会　　会　報（2010年10月）No.24

♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　♪　　文責　　柴田　悦子

第 24 回学習会を，平成 22 年 10 月 14 日（木）19：00 ～ 20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第 24 回目の内容
講師　重枝一郎先生（福岡市教育センター主任指導主事）
1　学級集団に対応する（最近の傾向から）
2　ビデオ「気になる自画像」
3　エクササイズ（「ごみュニケーション」）の体験活動

学級集団に対応する

教師と生徒，二者関係は良好
　しかし，集団の中では，そうとは限らない（同調傾向）
一人ひとりの特性の単純な総和ではなく，集団としての独特のエネルギーをもつ

↓

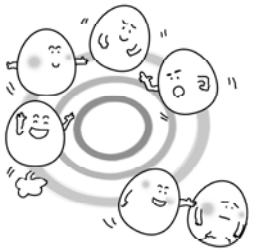
教師一人ひとりとかかわる「ソーシャルスキル」と同様に，「学級」という集団とのかかわりに対しても「ソーシャルスキル」の発揮が必要

つまり，二者との場合（1 対 1）と同様なことを，「学級」という集団を単位にして行う

最近の傾向
3，4 人の小グループ（何となく気が合う数人）
↓
しっかりとしたリーダーシップをとる人がいなくても大丈夫な規模(リーダーが育たない要因)
↓
これが，我々意識を感じ，所属感をより欲していくときには，深い思いを語ったり，理解を深め合ったりして，結束を固めようという方向には向かわない
（何となく，まったりといられるメンバー）
↓
手っ取り早く
①グループ内のメンバーだけで共通の秘密をもつ
②グループのメンバーたちの共通の敵をもつ

ひそひそ話
陰湿な雰囲気
疑心暗鬼
→ 分裂

Q-U などで 4 人を線で結んでみると見えてくることがある



グループをまとめている働きは「ふれあい」から生まれる**『協調』**ではなく，表面的に**『同調』**している場合が多い

トラブルの原因は，自分のグループというものを確認したいだけなので，意識しないでしていることが多く，とても些細なことが多い

対応のポイント

他のグループと対立することでしか，自分のグループを確認できないことが問題
↓
そんなことをしなくても，グループが確認できるようにする
また，小さなグループにしがみつかなくても安心していられるようにする

具体的には

①実態として率直に生徒に伝える（一般論としてでもよい。GWT の意義につなげる）
② GWT →振り返り（お互いの気持ちを交流。同調→協調を形成する道筋）
③年度初め（もしくは教育期）に，非建設的グループにならないよう予防する

GWT，自己紹介ゲーム（SGE），学級だより，協働学習，ペア日直
（学級掲示）
いろんなメンバーで，ペア・グループ体験

解　説

◎学校の「実態」に合わせて，「効果」が上がる「実践」をするために・・・

「風土会」では，「理論と実践」の両方を学んでいます。実践の質を高めるためには，「理論」を学ぶことが重要だと考えるからです。

「理論」とは，「実践」を意味づけ，「実践」に見通しを与え，「実践」の創造を可能にするものです。「風土会」では，「実践」がもつ優れた方法技術や法則性を客観化し，理論化することで，その実践をたくさんの先生方と共有し，広めたいと考えています。そのためには，それぞれの先生のなかで，自分の実践を意味づけ，方向づけていく「理論」が確立される必要があると思うのです。

今回の風土会で，次のような感想を寄せて頂きました。
『あっという間の１時間でした。まず，第一の矢のように，理論的な話（板書）があり，その後，実践編があり，かなり記憶に残る学習会でした。ありがとうございました。今後は感性を磨き，このような実習ができるような材料はないか，目を光らせないといけないなと痛感しました』
感想，ありがとうございます。

「風土会」の目的は，上記に記されているような，先生方の高まりを引き出すことです。つまり，「やる気」の先の「その気」を引き出し，「行動」を促すことです。

「実践」に伴う重要なポイントは，学校や子どもの実態に合わせて，「効果が上がるように」実践をアレンジすることです。同じ福岡市でも，学校によって子どもの実態は全く違います。それは，地域の背景が違うからです。「風土会」で学んだことを，そのまま実践しても，効果が上がらないことがあります。学校や子どもの実態に合わせて，臨機応変にアレンジしてください。

◎最近の子どもの傾向・・・

自ら集団を作れた時代の子どもたちと，最近の子どもたちは違います。

1999 年の調査結果に次のようなものがあります。小・中・高校の教師が，従来の子どもと現在を比較して感じていることを，10 項目挙げています。

①あきっぽく，がまんできない
②傷つくこと，失敗することを恐れ，新しいことに取り組もうとしない
③欲求充足志向で，おもしろくないことはしない
④個人的にしつけられていない，集団生活のマナーを理解していない
⑤うぬぼれが強く，自己主張的である
⑥対人関係を自ら形成しようとする意欲と技術が低い
⑦他人の気持ちを察することができない
⑧周りに流されやすい
⑨しゃべる内容は大人だが，心はとても幼い
⑩知識と生活面での具体的な行動が一致していない

（河村茂雄「教師のためのソーシャルスキル」誠信書房）

これからの学級経営には，子どもたちの人間教育を，学級集団を活用して，計画的に推進するためのストラテジーの側面が重要になってきています。人は緊張が少なく，あるがままの自分でいられる居場所となる集団に属することで，心が癒され，生きていく活力が喚起されます(心理的酸素の必要性)。

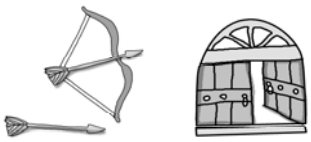
子どもは，そのような集団での生活体験を通して，社会性や人間関係のもち方，現実判断能力，道徳心などを自然に学びながら，自己を確立していくのです。

また，これからの学級経営に求められることは，子どもたちに一定の知識や社会性を効率的に学習させるために必要な学級集団ではなく，子ども一人ひとりを育てるための学級集団育成です。

教師は，時代の変化や子どもたちの最近の傾向を，まず，ありのままに受けとめます。そして，それに対する対応を，具体的に実践していくのです。

教育は，人格の完成を目指しているのですから，教師は，子どもの人間教育を担っているのです。

◎子どもに伝えるための「第１の矢」



「第１の矢」: 理論的な背景（考え方，土台，背景）
「第２の矢」: あたりまえの発言，お決まりの文句

子どもを「納得」させるためには，最初に「第１の矢」を放っておくと，「第２の矢」が素直に入ります。

「第１の矢」は，インパクトが大きいほど，子どもの納得も増すので，わざとネガティブな内容を話すことも，時に効果的です。

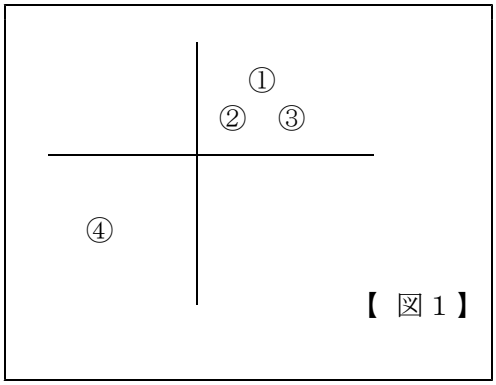
『最近のクラスの傾向として，何となく気が合う数人で固まっているけれど，小グループが固定化することがトラブルの原因になっています。グループごとで敵対し合って，そのことでしか，自分たちのグループを確認できないという，可哀想なグループがあります。本音を隠して，表面的につきあっているだけなので，グループに所属していても，お互い不安なのです。だから，自分たちの外に敵をつくって，自分たちの結束を強めようとするのです。自分たちだけの秘密をもとうとするのです。敵は誰でもいいし，秘密は何でもいいのです。ひそひそ話をして，陰湿な雰囲気を，クラスの中につくり出しています。

でも，こんな風に，グループにしがみつかなくてはならない人間関係って，どう思いますか？』・・・子どもたちに，投げかけます。

そして，第２の矢「みんなと仲良くしよう」と話し，「同調」から「協調」の道筋を示します。

また，特別活動や授業でも，「深い思いを語ったり，理解を深め合ったりする“場”」を意図的につくります。それが，予防・開発的な生徒指導にもつながります。最終的に分裂していくような，非建設的グループを生み出さないような「学級風土」をつくるのです。

最近，福岡市でも Q-U アンケートを行う学校が増えています。グループの子どもを線で結んでみると，見えてくることがあります。

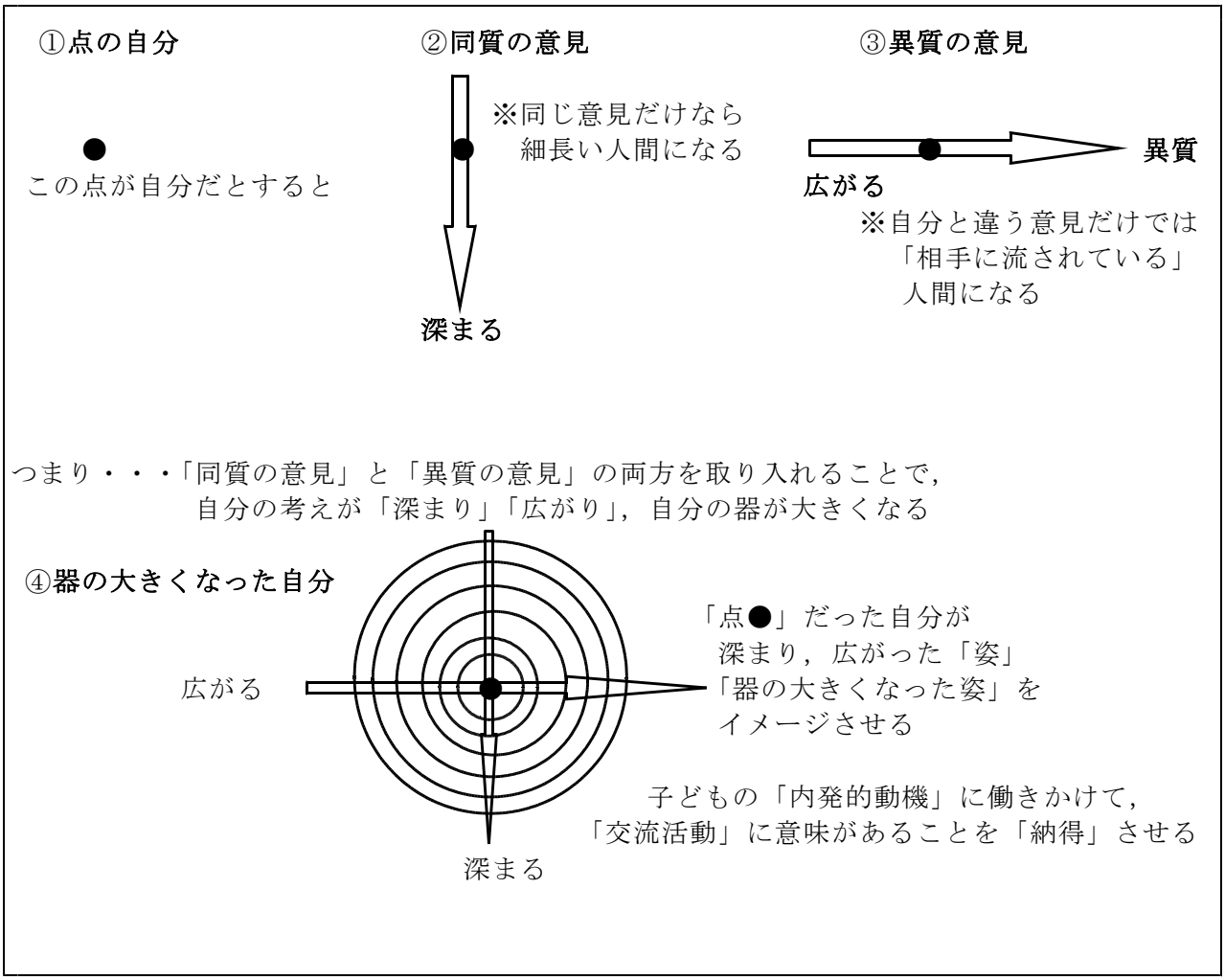


【 図１】

例えば，【図１】のような場合は，④の子どもが，グループ内に不満をもっていることも考えられます。一見，仲が良さそうに見えても，本当は，「同調」しているだけなのかもしれません。

協調させるためには，授業のなかで，異質なグループやいろいろなメンバーと，お互いの気持ちや考えを交流させることを積み重ねます。1 日の大半は授業なので，授業を通して雰囲気をつくっていくのです。話し合い活動は，言語活動です。授業と特別活動をオーバーラップさせ，リンクさせ，コラボレートさせていきます。

下記の内容も，「第１の矢」として話すと，効果的です。



教師は意図的に，小グループをつなげていきます。行事を通して行うこともできますが，日常的な取り組みの中で，継続的に行います。

◎GWTは3種類の実習

GWT の場合は，3 種類の実習があります。
①コンセンサス実習　②情報カード実習　③協力実習　です。

①コンセンサス実習では，
グループの話し合いにより，集団決定させます（合意）。他人の意見を聴いて，自分の意見を述べます。理由を言えるようにします。途中，自分の意見が変わっても OK です。
②情報カード実習では，
みんな必要とされているということを実感させます。どんな集団にも有効であり，盛り上がります。「楽しいからする」ではなく，「みんなでするから楽しい」をキャッチフレーズにします。
③協力実習では，
ゲーム性が強く楽しめます。役割分担などの評価を入れるようにします。PM 理論の振り返りも入れると効果的です。楽しいからこそ，振り返りが大事になります。

このような GWT も，授業での交流活動とオーバーラップさせ，リンクさせ，コラボレートさせていきます。

◎自尊感情が高まる取り組み

「良いところさがし」は，学級で繰り返し，何度でも取り入れたい活動です。同じような活動に，「良いところさがし川柳」があります。クラスの人の良いところを川柳にして，クイズにします。
このように，同じような活動をアレンジしたり，工夫したりしながら，積み上げていきます。
プラスのストロークを浴びさせるのです。自分の良さに気付き，相手の良さに気付き，認め合う活動は，子どもの自尊感情を高めます。

実践ビデオ紹介

「気になる自画像」

日頃，君たちは，軽い気持ちでふざけて相手をバカにしたり，不適切な言動をすることが多いと思います。でも，君たちの本音は違っていたりする。相手のことを認めることができる心を持っていると思います。
つまり，まだまだ幼くて，世間が狭いのです。今日は，自分を好きになることはもちろん，お互いの良いところを認め合っていく時間にできたらと思います。

学習プリントには，上記のように書かれています。

重枝クラス，1 年生の授業のビデオです。
教室で，男女分かれて，円になって「肩もみ」をしています。楽しい雰囲気で，盛り上がっています。
まずは，時計回りで，肩もみをして，次は入れ替わって，逆向きで肩もみをしていました。
みんな，笑顔です！！
活動が終わったところで，重枝先生が生徒に語りかけます。
「思いやりの気持ちをもらいましたか？」
「憎しみをもらいましたか？」
「力加減で，相手の気持ちがわかるよね。伝わります。入れ替わって，逆向きになったときに，おかえしがくる」

『思いやりを伝えよう』　重枝先生が，黒板に板書しました。

重枝先生は，クラスに「響き合う雰囲気」をつくろうとしています。
「元気」ではなくて，「響き合う」「落ち着いた」雰囲気を大切にしています。
それを言語化して，生徒に話しています。

「みんななら，このクラスなら，できるんじゃないかなと思っています。時々，自然にそういう雰囲気ができているときもあります。すごいなーって思います。
誰かが発言したら，やさしい雰囲気で耳を傾けている。そんな響き合う雰囲気をつくってください」

●次の２５の言葉の中から，その人にふさわしいものをそれぞれ３つずつ選んで，番号とコメントを記入しましょう。

①明るい　②正直な　③思いやりのある　④まじめな　⑤エネルギッシュな
⑥やさしい　⑦個性的な　⑧めんどうみのいい　⑨社交的な　⑩落ち着いた
⑪そぼくな　⑫行事に熱心な　⑬注意深い　⑭人の話をよく聴く　⑮ユーモアのある
⑯頼りがいのある　⑰公平な　⑱責任感がある　⑲親しみやすい　⑳言葉遣いがよい
▯気取らない　▯あたたかい　▯勇敢な　▯冷静な　▯その他（　　）

班活動をしています。
途中で，重枝先生が問いかけました。
〇〇くんにふさわしい言葉は，何かな？

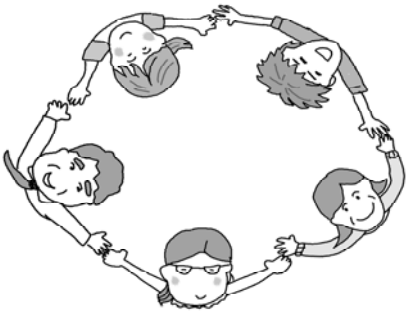
「１５番です」
「番号じゃなくて，言葉で言おう」

黒板の板書も，もちろん，番号ではなくて，ことばを書きます。そういう小さな事にも，こだわります。そこが，実は大事なのです。

「ユーモアがあるところです」
「何で，どんなところが，ユーモアがあると思う？
それを聞くと，本人も実感がわくよね。それが，響き合うクラス。日常的に，こういうつきあいをしている自分を，まわりは好ましいと思っているんだなと，それを知って，自分を好きになったり，認め合ったりできるクラス。このクラスは，そんな響き合うクラスになれる」

確かに，このようなあたたかな活動をしたり，重枝先生の語りを聞いたりしていると，「響き合うクラス」になれる！という気持ちになります。

肩もみをしている笑顔・笑顔・笑顔が印象的なビデオでしたが，その笑顔の背景には，日常的な取り組みと，教師の意図的な働きかけがあるのだと，納得！！！です。



エクササイズの体験活動

「ごみュニケーション」GWT（コンセンサス実習）

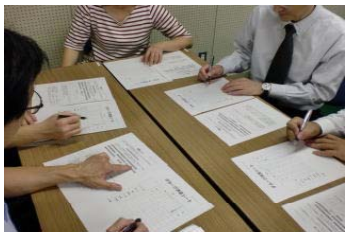
新聞を読んでいると，環境問題に関する記事をよく見かけますね。その環境問題の中で，身近なゴミの問題について，みんなで考えてみましょう。
みなさんの課題は，次の通りです。

平成○年度，○○市で家庭から出た普通ゴミの重さは，１世帯，１週間あたり，水分量を除くと６．９９kgでした。この内訳を重い順に並べることです。

上記の課題に取り組みました。
まずは，自分ひとりで考えて，自分の答えをワークシートに書き込みます。

ゴミは・・・プラスチック類，石・陶器類，紙類，繊維類，ガラス類，金属類，台所ゴミ類の７種類です。
ヒントとして，重さの内訳が示されています。

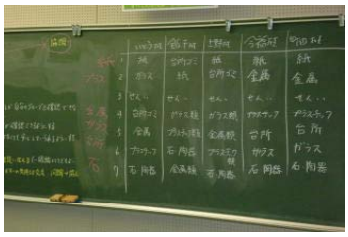
重さの内訳（kg）						
３．００	１．０４	０．６５	０．４９	０．４３	０．３８	０．１７



なぜ，その順番にしたのか，理由も考えておきます。
自分の考えを書いたら，次はグループで話し合って，グループの答えを決めます。
この活動で大切なことは，自分の意見をしっかり言い，他の人の意見をしっかり聴くことです。そうして，全員の納得が得られる答えを決定する活動です。これが，コンセンサス実習です。

風土会に参加した先生方で，５人グループをつくって体験しました。

まず，グループのリーダーを決め，進行役をお願いしました。
全員が自分の答えを言い，その中で，みんなの意見が重なっているところをもとに，話し合いがはじまりました。なぜ，その順番にしたのか，理由を聴くと，なるほどと，うなずけます。自分はこう思うのだけれどと，違う視点の意見が出ると，そちらも，うなずけます。
活発に意見が出ると，考えが深まり，自分一人だけで考えていたときには見えなかったことが，見えてきます。
また，話を聴いていると，その人の生活感やプライベートな部分が見えてきて，親しみがわきます。そうそう，私もそう思います！！と，合意に近づくと，盛り上がっていきます。自分では思いつかなかった発想や考えを聴くことは，楽しいことです。自分の考えを，ふんふんと頷きながら聴いてもらえることも，嬉しいことです。
このように，大人でも楽しく，はじめて会った人とも，自然に打ち解けられる活動でした。



ぜひ，学級での「交流活動」に，取り入れてみてください。

☆　今回の学習会のキーワード　☆

○第１の矢（理論的な背景），第２の矢（あたりまえの発言，お決まりの文句）
○同調→協調を形成する道筋
○ GWT：①コンセンサス実習　②情報カード実習　③協力実習
○思いやりを伝えよう
○響き合うクラス

♪学習会に参加された先生方の感想♪　（参加人数　25 名）

・今回の学習会もなるほど！と思いました。１対１では普通だが，集団に入ると変わる生徒が多くて，大変だと感じていました。授業参観で「アサーション・トレーニング」をしました。最後に「アサーションの歌（ドラえもんの替え歌）」を歌い，生徒もかなり気に入ったようでした。保護者受けもよかったです。ありがとうございました。

・初めて会う先生方ともすぐに交流できる勉強会なので，一人で参加しても安心ですね。なかなか自分たちのグループから友達の輪を広げられない子どもが増えているなと感じていたので，今日の同調→協調は，なるほどと思いました。

・コンセンサス実習は初めてで，今の自分の学校で非常にプラスになる内容だと思いました。ただ，生徒の現状から，具体的に自分の言葉に置き換えて伝えていかないといけないので，そこは注意したいと感じました。

・現在，合唱コンクールの取り組み中で，学級集団が問われているときです。まさに，３，４人の小グループが点在している中，それを学級集団にどう，取り込んでいくかを考えている最中でした。班ノートの取り組みを 2 学期になってからやり始め，子どもたちの中で思いを伝えるように仕組んでいます。集団づくりは，時間はかかりますが，子どもの変容がみられるので，楽しいと感じています。GWT などをさらに取り入れて，よい合唱ができる工夫をしたいと思いました。

・クラスの男女はそれぞれグループはありますが，いろいろな生徒と関わって生活している状態です。ただ，班になると 3 人男子（女子）が，どうしても２対１になる傾向があるので，今日学んだ活動をうまく取り入れていきたいと思いました。毎回，勉強になります。改めて自分のクラスを振り返る機会になります。

・2 回目の参加でしたが，毎回，体験を通して学ぶことができるので，嬉しいです。なぜ，するのかという理論をきちんと理解したうえで，生徒に様々な活動をさせていけたらと思います。いろいろな人と活動する体験というのは，自分の教科である英語の授業の中で多く用いることができるので，どんどん試したいです。本当にありがとうございました。

・今日，初めて参加させていただきました。話の内容が，今，自分自身が悩んでいることだったので，とても参考になりました。同調だけのグループが自分のクラスにも存在していると思うので，協調でつながるクラスをつくっていきたいと思います。

・クラスの小グループから，教師が意図して，協調できるものにしていけたら，団結できるいいクラスができるのだと知ることができました。その協調をさせるために，コンセンサス実習を活用して，生徒が意見を言い，みんなで話し合える場をつくる手段が学べて，とても勉強になりました。

・なってはならないグループ像をわかりやすく教えて頂きました。職場組織でもなりがちです。非生産的な態様です。職場の風土づくりを工夫したいと思いました。また，よいところ探しを自分でするだけではなく，見つけたよいところを職場の朝礼などで，タイミングよく共有していきたいと思いました。メンバーシップ（フォロアーシップ）をどう醸成していけばいいのかを考えています。今後も可能な限り，参加したいと思っています。